

- 4) 上記の検査終了後の検体に残余がある場合には個別検体あるいは数名の血液を合わせてダイオキシン類および関連物質の測定を実施させていただくことがあります。

3 第2子調査

平成9年度から平成20年度に母乳中のダイオキシン類を測定した人で第2子以降の児を産んだ人の母乳調査（第1子調査と同内容）、なお、前児の1歳児乳幼児健康調査が実施されていない場合には、前児の哺乳状態等調査用紙も記入する

従来の研究との変更点

（昨年とは変更ありませんが、一昨年と異なる点）

- (1) 調査対象地区：県内の同一市または保健所管内としてお願いして来ましたが、検体採取が困難な場合には、同一県内であれば細かい地域の限定をはずします。
- (2) 保健所等で検体を回収した場合には連絡すればエスアールエルが集配に来ます。
（家庭から直ちに検査会社を送るときに冷蔵庫の冷凍室に保管した母乳を直接クール宅急便等で送付して貰います）
- (3) 血液検査終了後に検体に残量がある場合には、上記検査の他に、個別検体あるいは数名の検体を合わせて血液中のダイオキシン類濃度等を測定します。

添付依頼文および同意書

- 1) 母乳調査協力お願い・同意書
- 2) 乳幼児健康調査協力お願い・同意書・結果通知

添付調査用紙

- 1) 平成21年度母乳中のダイオキシン類調査 問診票 (様式1)
- 2) 平成21年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式2)
- 3) 平成21年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式3)
- 4) 乳幼児健康調査票 (1歳児用) (様式4)
- 5) 乳幼児健康調査 (問診票) (様式5)
- 6) 第2子の母乳採取時の第1子の栄養および健康調査票 (様式6)

- 1) は妊婦の背景調査なので問診票への記入をお願いします。
- 2) 3) は母乳採取時(産後30日頃)に調査して下さい。
- 4) 5) は1歳児の乳幼児健診時に健診と採血の他、健康状態の記入と問診をお願いします。
- 6) は第2子以降の児の母乳採取に協力が得られた場合で前児が1歳乳幼児健診を受けていない場合には前児の母乳哺乳状態を把握するために調査して下さい。

平成21年度母乳中のダイオキシン類調査 問診票 (様式1)

母親氏名： _____

乳児氏名： _____

今回の出産： 第 _____ 子

住所： 〒 _____

電話番号： _____ - _____ - _____

調査年月日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

1. 母親の現状

生年月日：昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

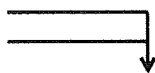
身長： _____ cm (本人の申告 大体の数値でよい)

妊娠直前の体重： _____ kg (本人の申告 大体の数値でよい)

出産 (予定) 日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

出産 (予定) 場所 (医療機関の場合には医療機関名, 所在地, 電話番号)

- 1. 自宅
- 2. 助産所
- 3. 病院・診療所



名 称： _____

所在地： _____

電 話： _____ - _____ - _____

妊娠中のつわりの状況 1. ほとんどない 2. 軽度 3. 中等度 4. 重度
(本人の主観的判断でよい)

2. 母親本人の乳児期の状況

出生順位： _____ 人中の _____ 番目 (死産は含まない)

乳児期 (生後3か月まで) の栄養 1. 母乳のみ 2. 混合栄養 3. ミルクのみ

(予め本人から自分の母親 [産まれてくる子供からみたら母方祖母] に尋ねておいてもらう)
(この情報がどうしても得られない場合には, その旨欄外に記載しておく [記入漏れと区別するため])

3. 居住歴 (住民登録の場所ではなく, 実際に住んでいた場所を尋ねる)

I 現在の居住地

昭・平 _____ 年 _____ 月から現在に至る (上記の住所)

飲用や食事に使用する水は 1. 水道水 2. 井戸水 3. 両方

II 過去の居住地（生まれたときまでさかのぼる）

昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
____都・道・府・県____市・郡____区・町・村
____丁目・番____号____
飲用や食事に使用する水は 1. 水道水 2. 井戸水 3. 両方

昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
____都・道・府・県____市・郡____区・町・村
____丁目・番____号____
飲用や食事に使用する水は 1. 水道水 2. 井戸水 3. 両方

昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
____都・道・府・県____市・郡____区・町・村
____丁目・番____号____
飲用や食事に使用する水は 1. 水道水 2. 井戸水 3. 両方

出生時から 昭・平____年____月まで
____都・道・府・県____市・郡____区・町・村
____丁目・番____号____
飲用や食事に使用する水は 1. 水道水 2. 井戸水 3. 両方

（欄が足りない場合には別紙に同じ様式で記入する）

4. 職業歴（ダイオキシンへの曝露を評価するので具体的な仕事の内容を尋ねる）

I
昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
勤務先____
具体的な仕事内容____
（例えば、事務、運転手、ゴミ処理場での現場作業、など、以下も同様）

II
昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
勤務先____
具体的な仕事内容____

III
昭・平____年____月から 昭・平____年____月まで
勤務先____
具体的な仕事内容____

（欄が足りない場合には別紙に同じ様式で記入する）

5. 喫煙歴

a. 本人の喫煙歴 (建前ではなく実態を聴取する。指導・評価はしない)

1. 習慣的な喫煙はしたことがない (生涯において数本～数十本程度の喫煙歴を含む)
2. 現在喫煙中
3. 今回の妊娠のためにやめた (中断中も含む)
4. 今回の妊娠以前にやめた

その理由	a. 病気	
	b. 医療専門職のすすめ	
	c. その他 (

2. 3. 4. の場合 ←

喫煙した期間と1日の本数, 主な銘柄

期間	本数	銘柄
_____ 歳から _____ 歳	1日約 _____ 本	銘柄 _____
_____ 歳から _____ 歳	1日約 _____ 本	銘柄 _____
_____ 歳から _____ 歳	1日約 _____ 本	銘柄 _____
_____ 歳から _____ 歳	1日約 _____ 本	銘柄 _____

(1日の本数, 銘柄が変わった時には行を変えて記載する)

b. 受動喫煙

- I. 小学生の時に, 同居人の中で喫煙する人が 1. いなかった 2. いた (_____ 人)
- II. 中学生の時に, 同居人の中で喫煙する人が 1. いなかった 2. いた (_____ 人)
- III. 現在の同居人の数は _____ 人 (本人は含まない, a)

このうち, 現在非喫煙者 (やめた者も含む) _____ 人 (b)
 喫煙者だが家の中ではすわない者 _____ 人 (c)
 喫煙者で家の中でも吸う者 _____ 人 (d)

(a = b + c + dとなる)

6. 妊娠直前の健康状態, 既往歴

- | | | |
|--------------|-------|--------------------------------|
| 子宮筋腫の既往歴 | 1. なし | 2. あり (_____ 歳の時) |
| 子宮内膜症の既往歴 | 1. なし | 2. あり (_____ 歳の時) |
| アトピー性皮膚炎の既往歴 | 1. なし | 2. あり (_____ 歳の時) |
| 甲状腺疾患の既往歴 | 1. なし | 2. あり (_____ 歳の時, 病名: _____) |

その他の既往歴 (入院するような大きな疾患)

病名 _____ 歳の時

病名 _____ 歳の時

妊娠直前の健康状態

1. 持病があった

病名 _____
 a. 医師の管理下 b. その他

2. 健康であった

7. 食習慣

(調査年月日：平成____年____月____日)

この項目は可能であれば栄養士が担当する。
できれば他の項目と同じ日に調査することが望ましいが、負担が大きい場合には他の項目と日を変えて調査を行ってもよい。

1. ダイオキシンと関係の深そうな食品については、頻度と1回あたりの量を尋ねる。現在の状態と妊娠前1年間の平均的な摂食状況とを尋ねる。

頻度と目安量との比較は次の数値で表す。

頻度：1. 食べない 2. 月に1～3回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. 週に5～6回 6. 毎日1回 7. 毎日2～3回 8. 毎日4～6回
9. 毎日7回以上

1回あたりの目安量との比較：1. 目安量と比較して少ない(半分以下)
2. 目安量と同じ
3. 目安量と比較して多い(1.5倍以上)

見本

食品名		目安量	時期	頻度	目安量との比較
牛肉	ステーキ	ステーキ用1枚 (150g位)	現在	2	2
			妊娠前1年間	2	1

現在は牛肉のステーキを月に1～3回食べ、1回の摂取量は目安量(ステーキ用1枚、約150グラム)とほぼ同じ(半分から1.5倍の間)であるが、妊娠前1年間の平均は月に1～3回、1回の量は目安量の半分以下であったことを示す。

食品名		目安量	時期	頻度	目安量との比較
牛肉	ステーキ	ステーキ用1枚 (150g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	焼き物 (焼き肉など)	うす切り5枚 (100g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	煮込み (カレー、シチューなど)	2～3cm角切り3個 (50g位)	現在		
			妊娠前1年間		
豚肉	炒め物 (野菜炒めなど)	うす切り3枚 (60g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	あげ物 (とんかつなど)	とんかつ用1枚 (100g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	煮込み (カレー、シチューなど)	2～3cm角切り3個 (50g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	煮物 (角煮、など)	2きれ (60g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	汁物 (豚汁、など)	うす切り2枚 (40g位)	現在		
			妊娠前1年間		
豚レバー (ニラレバ炒めなど)	2きれ (40g位)	現在			
		妊娠前1年間			
鳥肉	焼き物 (やきとりなど)	やきとり2本 (70g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	あげ物 (からあげなど)	3個 (50g位)	現在		
			妊娠前1年間		
	鳥レバー (やきとりなど)	やきとり1本 (30g位)	現在		
			妊娠前1年間		

頻度：1. 食べない 2. 月に1～3回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. 週に5～6回 6. 毎日1回 7. 毎日2～3回 8. 毎日4～6回
9. 毎日7回以上

1回あたりの目安量との比較：1. 目安量と比較して少ない (半分以下)
2. 目安量と同じ
3. 目安量と比較して多い (1.5倍以上)

食品名	目安量	時期	頻度	目安量との比較
ロースハム	普通切り1枚 (15g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ウィンナー・ソーセージ	2本(30g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ベーコン	1枚(20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ランチョンミート缶詰	8分の1缶(40g位)	現在		
		妊娠前1年間		
牛乳	200cc 1本	現在		
		妊娠前1年間		
卵	中1個(50g位)	現在		
		妊娠前1年間		
チーズ	スライス [※] 1枚 (20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ヨーグルト	カップ型1個 (120g位)	現在		
		妊娠前1年間		

頻度：1. 食べない 2. 月に1～3回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. 週に5～6回 6. 毎日1回 7. 毎日2～3回 8. 毎日4～6回
9. 毎日7回以上

1回あたりの目安量との比較：1. 目安量と比較して少ない(半分以下)
2. 目安量と同じ
3. 目安量と比較して多い(1.5倍以上)

食品名	目安量	時期	頻度	目安量との比較
塩たら・塩ほっけ・塩さけ	切り身1きれ (70g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ひもの (あじ開きぼしなど)	1枚 (50g位)	現在		
		妊娠前1年間		
まぐろ缶詰 (シーチキン, フルー)	4分の1缶 (20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
さけ・ます	切り身1きれ (70g位)	現在		
		妊娠前1年間		
かつお・まぐろ	さしみ4きれ (60g位)	現在		
		妊娠前1年間		
たら・かれい	2分の1きれ (40g位)	現在		
		妊娠前1年間		
たい類 (まだい, など)	1きれ (70g位)	現在		
		妊娠前1年間		
あじ・いわし	1尾 (80g位)	現在		
		妊娠前1年間		
さんま・さば	1尾 (80g位)	現在		
		妊娠前1年間		
しらすぼし	大さじ2杯 (10g位)	現在		
		妊娠前1年間		
たらこ・すじこ	たらこ4分の1腹 (20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
うなぎ	2分の1串 (50g位)	現在		
		妊娠前1年間		

頻度：1. 食べない 2. 月に1～3回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. 週に5～6回 6. 毎日1回 7. 毎日2～3回 8. 毎日4～6回
9. 毎日7回以上

1回あたりの目安量との比較：1. 目安量と比較して少ない (半分以下)
2. 目安量と同じ
3. 目安量と比較して多い (1.5倍以上)

食品名	目安量	時期	頻度	目安量との比較
いか	さしみ3きれ (50g位)	現在		
		妊娠前1年間		
たこ	あし1/3本 (50g位)	現在		
		妊娠前1年間		
えび	大正えび2尾 (40g位)	現在		
		妊娠前1年間		
あさり・しじみ	むき身10個 (20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
たにし	むき身10個 (20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
ちくわ	6分の1本(20g位)	現在		
		妊娠前1年間		
かまぼこ	2きれ(20g位)	現在		
		妊娠前1年間		

頻度：1. 食べない 2. 月に1～3回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. 週に5～6回 6. 毎日1回 7. 毎日2～3回 8. 毎日4～6回
9. 毎日7回以上

1回あたりの目安量との比較：1. 目安量と比較して少ない(半分以下)
2. 目安量と同じ
3. 目安量と比較して多い(1.5倍以上)

II. 上記の食品群ほどダイオキシンとの関連が強くない食品については、以下の頻度を尋ねる。これについても現在の状況と妊娠前1年間の平均的な頻度を尋ねる。

頻度と目安量との比較は次の数値で表す。(上記の頻度と異なるので、要注意)

頻度：1. ほとんど食べない 2. 月に1～2回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. ほとんど毎日

食品名	現 在	妊娠前1年間(平均)
バター		
マーガリン		
フライ・てんぷら類		
野菜いため		
有色野菜	ニンジン・カボチャ	
	トマト	
	その他の緑黄色野菜(ほうれん草, 春菊など)	
白色野菜	キャベツ・レタス	
	白菜	
	山菜(ワラビ, ゼンマイなど)	
	きのこ類・エノキ・シイタケ	
	いも類(サツマイモ, ジャガイモなど)	
	海草(のり, ワカメ, こんぶなど)	
	つけもの(たくわん, 白菜づけなど)	
	佃煮類	
	煮豆	
とうふ		
みかん類		
天然果汁		
他の果物(どんなものでも可)		
菓子類(まんじゅう, ようかん, ケーキなど)		

一部で食材と献立が重複する部分があるこのような場合は、それぞれで独立して頻度を記入する。例えば、野菜いためを週に3～4回食べ、このうち月に1～2回はニンジン・カボチャが入っている。これとは別にニンジン・カボチャを食べるので、ニンジン・カボチャは前記の野菜いためを含めて週に1～2回食べているとする。この場合には「野菜いための頻度は週に3～4回(4番)、ニンジン・カボチャの頻度は週に1～2回(3番)」とする。

III. 家庭菜園でとれた野菜の摂取

1. ほとんどない 2. 時々ある 3. しばしばある 4. 野菜はほとんどが自家製

補足：I, II共に頻度を一覧表(A4用紙1枚程度か)にし、調査対象者に示し、この中から選んでもらう。目安量についてはフードモデル、写真などを用いた方がよい。

平成 21 年度厚生労働科学（食品の安心・安全確保推進）研究事業
「母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への
影響に関する研究」班

平成 21 年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式 2)

母親氏名： _____

(フリガナ)

乳児氏名： _____ 男・女 (第 _____ 子)

乳児の生年月日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

調査年月日 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

1. 妊娠・分娩の経過

在胎期間 : _____ 週 _____ 日

分娩胎位 : 1. 頭位 2. 骨盤位 3. その他 (_____)

帝王切開 : 1. なし 2. あり

妊娠合併症 : 1. なし 2. あり (_____)

2. 出生時の児の状態

出生時の計測値 : 体重 _____ g 身長 _____ cm

胸囲 _____ cm 頭囲 _____ cm

新生児仮死 : 1. なし
2. あり → アプガー・スコア _____ 点 (1分)

_____ 点 (5分)

3. 早期新生児期の状態

早期新生児期の異常 : 1. なし
2. あり (病名 : _____)

先天性代謝異常検査 : 1. 未実施
2. 実施済 → 結果 : 1. 異常なし
2. 要再検査
(項目 : _____)

平成 21 年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式 3)

母乳採取時調査

母親氏名： _____

乳児氏名： _____

(様式 2 を取り外さなければ、氏名は様式 2 のみでよい)

1. 調査年月日（本調査票記入年月日）：平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

2. 母乳採取状況

a. 母乳採取ができなかった

理由：転居，協力拒否，乳児の死亡，死産，母親の死亡

母乳の中止（中止月日： _____ 月 _____ 日頃）

その他（ _____ ）

b. 母乳採取完了（採取年月日：平成 _____ 年 _____ 月 _____ ～ _____ 日）

3. 出産後の母親の健康状況（母乳が採取できなかった場合も記入する）

a. 疾患なし

b. 疾患あり（病名： _____ ）

4. 乳児の発育状況（母乳が採取できなかった場合も記入する）

身体計測値（出来るだけ直近のものを記入：計測月日 _____ 月 _____ 日）

体重： _____ g 身長： _____ cm

胸囲： _____ cm 頭囲： _____ cm

栄養方法： 母乳 1. 与えている → 1日 _____ 回

2. 与えていない

人工乳 1. 与えている → 1回 _____ ml × 1日 _____ 回

2. 与えていない

乳児健診受診 1. なし 2. あり a. 異常なし
b. 異常あり（指摘事項： _____ ）

疾患の有無 1. なし 2. あり（病名 _____ ）

乳幼児健康調査票 (1歳児用)

(都府県名)

母親氏名：
 乳幼児氏名： 性別：男・女 出生体重： g 出生順位：第 子
 生年月日： 年 月 日 (在胎 週 日または出産予定日 月 日)
 出生場所 (病院等の名称)：

I これまでにかかった病気：

II 現在までの発育・発達

1) 発育発達：

次のことが出来るようになったのはいつですか。

- | | | | | | |
|-----------|-----|---|-----------------|-----|---|
| (1) 首のすわり | ：生後 | 月 | (4) つかまり立ち | ：生後 | 月 |
| (2) 寝返り | ：生後 | 月 | (5) 伝い歩き | ：生後 | 月 |
| (3) お座り | ：生後 | 月 | (6) 一人歩き (2～3歩) | ：生後 | 月 |

2) 1歳の誕生日までに次の項目が出来れば○、出来なければ×、試みたことがなければ△をつけて下さい。

- | | | | |
|------------------------------------|----|---|----|
| (1) 「いけません」というと、ちょっと手をひっこめる。 | (○ | × | △) |
| (2) 「バイバイ」や「さよなら」に反応する。 | (○ | × | △) |
| (3) 「おいで」「ちょうだい」「ねんね」などを1つでも理解できる。 | (○ | × | △) |
| (4) 食物のことを「マンマ」という (他の有意義語でも良い)。 | (○ | × | △) |
| (5) ブラシ、鉛筆などを使うまねをする。 | (○ | × | △) |

III これまでの栄養状態を教えてください。

1) ほ乳方法はどうか。次の番号をカッコ内に入れて下さい。

1. 母乳のみ 2. 混合 (母乳が主) 3. 混合 (母乳とミルクがほぼ等量)
 4. 混合 (人工が主) 5. 人工栄養のみ

生後1ヶ月未満	(ほ乳方法)	6～7ヶ月未満	(ほ乳方法)
1～2ヶ月	〃 (ほ乳方法)	7～8ヶ月	〃 (ほ乳方法)
2～3ヶ月	〃 (ほ乳方法)	8～9ヶ月	〃 (ほ乳方法)
3～4ヶ月	〃 (ほ乳方法)	9～10ヶ月	〃 (ほ乳方法)
4～5ヶ月	〃 (ほ乳方法)	10～11ヶ月	〃 (ほ乳方法)
5～6ヶ月	〃 (ほ乳方法)	11～12ヶ月	〃 (ほ乳方法)

IV 予防接種の接種状況を母子健康手帳から書き写して下さい。

予防接種の種類	接種月日
{	}

注意事項：調査予定日から2週間前以内に37.5℃以上の発熱や風邪をひいた場合又は予防接種を受けた場合には、必ず、下記までご連絡下さい。発熱や風邪が治りかつ予防接種日から2週間以上経過した日に調査日の変更を行います。
 : 母子健康手帳を忘れずにご持参下さい。

連絡先

TEL

乳幼児健康調査（問診票）

（都府県名）

母親氏名：
乳幼児氏名：

年 齢： 歳 月（満1歳2ヶ月未満）

採血問診日： 月 日（医療機関及び医師名）

①採血時よりさかのぼって2週間以内に37.5℃以上の発熱がある。 ある ない

②採血時よりさかのぼって2週間以内に風邪をひいた。 ある ない

③採血時よりさかのぼって1ヶ月以内に予防接種を受けた。 ある ない

母子健康手帳を確認し 誕生以来の全ての 予防接種を記入	[予防接種の種類	接種月日]
-----------------------------------	---	---------	------	---

④過去に重い病気にかかったことがある。 ある ない
（「ある」の場合の病名：）

⑤アレルギー疾患がある。 ある ない
（「ある」の場合の病名：）

⑥採血時の体温（℃）

⑦発育・発達状況
身体発育（生後 月 日）
体重 g 身長 cm 頭囲 cm 胸囲 cm
「乳幼児健康調査票（1歳児用）のⅡ発育発達」について確認をし、必要に応じ
身体等のチェックを行う。
所見（）

⑧これまでの栄養状況
「乳幼児健康調査票（1歳児用）のⅢこれまでの栄養状況」について確認をし、
必要に応じ調査票を訂正する。

⑨その他特記事項（）

注：①又は②で「ある」の場合、③において「ある」かつ1ヶ月以内にポリオや麻疹などの生ワクチンか2週間以内に生ワクチン以外の予防接種を受けた場合、⑤において37.5℃以上の体温がある場合は、いずれも当日の採血は中止し、予防接種又は37.5℃以上の発熱若しくは風邪が治ってから2週間以上期間を置いて改めて採血を行うこと。

* ただし、予防接種や発熱により、前述のと通りの調査日の設定がどうしても困難な場合には、検査結果は参考値になるが調査等を行うことを保護者に伝え、調査日を設定する。

第2(3)子の母乳採取時の第1(2)子の栄養および健康調査票

都府県名()

母親氏名: 連絡先:TEL

第1(2)子氏名: 性別:男・女 出生体重: g
 生年月日: 年 月 日(在胎 週 日または出産予定日 月 日)

第2(3)子氏名: 性別:男・女 出生体重: g
 生年月日: 年 月 日(在胎 週 日または出産予定日 月 日)

第1(2)子(まえのお子さん)についてお尋ねします:

I これまでに重い病気にかかったことがありますか : ある ない
 あった場合の病名:

II アレルギー疾患があるといわれたことがありますか : ある ない
 あった場合の病名:

III 現在までの発育・発達

1) 身体発育(1歳近くでの測定日の月齢と測定値を記入して下さい):測定日(生後 月 日)
 体重 g 身長 cm 頭囲 cm 胸囲 cm

2) 運動発達:

次のことが出来るようになったのはいつですか。

(1)首のすわり : 生後 月 (4)つかまり立ち : 生後 月
 (2)寝返り : 生後 月 (5)伝い歩き : 生後 月
 (3)お座り : 生後 月 (6)一人歩き(2~3歩) : 生後 月

3) 1歳の誕生日までに次の項目が出来ていたら○、出来なければ×、記憶に無ければ△を○で囲んで下さい。

(1)「いいけません」というと、ちょっと手をひっこめる。 (○ × △)
 (2)「バイバイ」や「さよなら」に反応する。 (○ × △)
 (3)「おいで」「ちょうだい」「ねんね」などを1つでも理解できる。 (○ × △)
 (4)食物のことを「マンマ」という(他の有意義語でも良い)。 (○ × △)
 (5)ブラシ、鉛筆などを使うまねをする。 (○ × △)

III 1歳までの栄養状態を教えてください。

ほ乳方法はどうか。次の番号をカッコ内に入れて下さい。

1. 母乳のみ 2. 混合(母乳が主) 3. 混合(母乳とミルクがほぼ等量)
 4. 混合(人工が主) 5. 人工栄養のみ

生後1ヶ月未満	(ほ乳方法)	6~7ヶ月未満	(ほ乳方法)
1~2ヶ月 "	(ほ乳方法)	7~8ヶ月 "	(ほ乳方法)
2~3ヶ月 "	(ほ乳方法)	8~9ヶ月 "	(ほ乳方法)
3~4ヶ月 "	(ほ乳方法)	9~10ヶ月 "	(ほ乳方法)
4~5ヶ月 "	(ほ乳方法)	10~11ヶ月 "	(ほ乳方法)
5~6ヶ月 "	(ほ乳方法)	11~12ヶ月 "	(ほ乳方法)

(第2子以降の母乳採取に協力が得られた場合で前児が当研究班の1歳時乳幼児健康診査を受診しなかった場合に記入して下さい)

母乳採取へのご協力をお願い

ダイオキシンによる大気や食品などの汚染が問題になっています。ダイオキシンは体外への排泄が少なく、体内の脂肪に蓄積する傾向があります。母乳中には脂肪が多く、ダイオキシンも脂肪と一緒に分泌されるため、赤ちゃんは母乳哺乳時にダイオキシンを摂取することになり、母乳の安全性が問題になります。

ダイオキシンの人体とくに乳幼児に与える影響はほとんどわかっていないため、厚生労働省は「母乳中のダイオキシン類に関する研究」班を組織し、母乳中のダイオキシン汚染の実態調査と赤ちゃんへの影響を調査してまいりました。

この研究班では日本各地の多くのお母様から母乳の提供を受け、ダイオキシンを測定するとともに、そのお子様が1歳になった時点でご協力頂き、赤ちゃんの健康への影響を調査しました。これらの調査の結果、日本人の母乳中のダイオキシン濃度は欧米の母乳に較べて高い値ではなく、1歳時の健康調査と血液検査の結果からも、現在のダイオキシンレベルでは乳児の健康に明らかな影響は認められないことが判明しました。

この様な研究結果から、母乳の多くの利点を考慮すると母乳を飲ませることに現時点では問題がないと考えることが出来るようになりました。しかし、ダイオキシン汚染は現状より低下させることが望ましく、また他の環境汚染物質と複合した健康への影響も検討が必要であり、引き続き母乳中のダイオキシン濃度の測定と乳幼児の健康への影響を検討することが必要であると考えられます。

このため本年度も関係都道府県のご協力のもとに、母乳中のダイオキシンおよび関連汚染物質の測定を実施しますので、わが国のダイオキシン汚染対策にも寄与する本研究にぜひご協力下さいますようお願い申し上げます。

検査はまとめて行いますので、その都度測定結果をお知らせできませんが、調査結果がまとまったところで、ご希望の方にはお知らせいたします。

なお、本調査のすべての情報について個人名が出ることはなく、統計的に処理されますので、ご協力いただいた皆様へご迷惑をおかけすることはありません。

よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

厚生労働科学研究（食品の安心・安全確保推進）研究事業

「母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究」

主任研究者 多田 裕 （東邦大学名誉教授）

分担研究者 中村 好一（自治医科大学教授）

分担研究者 近藤 直実（岐阜大学大学院教授）

分担研究者 板橋家頭夫（昭和大学教授）

分担研究者 岡 明（杏林大学教授）

分担研究者 宇賀 直樹（東邦大学教授）

連絡先 県 部 課 担当
電話

母乳採取へのご協力のお願い

ダイオキシンによる母乳の汚染が問題になっていますが、厚生労働省の「母乳中のダイオキシン類に関する研究」班では、皆様から提供していただいた母乳中のダイオキシンの濃度を測定するとともに、そのお子様が1歳になった時点でご協力頂き赤ちゃんの健康への影響を調査してまいりました。これらの調査の結果、日本人の母乳中のダイオキシン濃度は欧米の母乳に較べて高い値ではなく、1歳時の健康調査と血液検査の結果からも、現在のわが国のダイオキシンレベルでは乳児の健康に明らかな影響は認められないことが判明しました。お陰様で母乳の多くの利点を考慮すると母乳を飲ませることに現時点では問題がないと考えることが出来るようになりました。

しかし、ダイオキシン汚染は現状より低下させることが望ましく、また他の環境汚染物質と複合した健康への影響も問題となるので、引き続き母乳中のダイオキシン濃度の測定と乳幼児の健康への影響を検討することが必要であると考えられます。

このため本年度も関係都道府県のご協力のもとに、初産婦のお母様の母乳中のダイオキシンの測定と1歳時の検査を実施しますが、同時にこれまでに母乳を提供して頂いたお母様が第2子以降のお子様を出産された場合に、前回と同様に生後30日の母乳を提供していただき、ダイオキシンおよび関連汚染物質の濃度を測定するとともに、第2子以降のお子様への影響を検討して、第1子と比較して健康への影響を調査することを計画しております。わが国のダイオキシン汚染対策にも寄与する本研究にぜひご協力下さるようお願い申し上げます。

なお、本調査のすべての情報について個人名が出ることはなく、統計的に処理して発表しますので、ご協力いただいた皆様にご迷惑をおかけすることはありません。また、ご希望の方には、検査結果がまとまったところで結果をお知らせいたします。

皆様のご協力をよろしくお願い致します。

厚生労働科学研究（食品の安心・安全確保推進）研究事業

「母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究」

主任研究者 多田 裕（東邦大学名誉教授）
分担研究者 中村 好一（自治医科大学教授）
分担研究者 近藤 直実（岐阜大学大学院教授）
分担研究者 板橋家頭夫（昭和大学教授）
分担研究者 岡 明（杏林大学教授）
分担研究者 宇賀 直樹（東邦大学教授）

連絡先 県 部 課 担当
電話

同意書

厚生労働科学研究（食品の安心・安全確保推進）研究事業

「母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究」

主任研究者 多田 裕 殿

分担研究者 中村 好一 殿

分担研究者 近藤 直実 殿

分担研究者 板橋家頭夫 殿

分担研究者 岡 明 殿

分担研究者 宇賀 直樹 殿

私は貴殿の研究の主旨・内容を理解し、研究に協力いたします。ただし、私の都合でこの研究協力を途中で辞退する場合があります。

記入年月日： 平成 年 月 日

住 所：

氏名(自署)：

なお、調査結果の連絡を

1. 希望します。
2. 希望しません。

(1. 2. のいずれかに○を付けて下さい。)

乳幼児健康調査等へのご協力をお願い

昨年からの母乳中のダイオキシン類調査にご協力いただきありがとうございました。結果は我が国の母乳中のダイオキシン類の濃度を把握するための貴重な資料として利用させていただきます。

現在のところ、ダイオキシンが人体に与える影響についてはほとんどわかっていませんが、現在までの本研究班の結果ではダイオキシンによると考えられる乳幼児の健康への影響は認められず、WHO（世界保健機関）の専門家会合においても母乳の利点を含め総合的に検討し引き続き母乳の推進を図るべきであるとの見解が出されています。

しかし、母乳中のダイオキシン類の量を測定し、その影響や問題点を検討することは、今後のダイオキシン対策を進めていく上でも重要であることから、厚生労働省では関係都府県の協力のもとに、引き続き母乳中のダイオキシン類等に関する調査研究を行うことになっています。

つきましては、平成20年度の母乳中のダイオキシン類に関する調査にご協力いただいた方のお子様に健康チェックへのご協力をお願いしたいと存じます。

健康チェックの内容としては、生後12ヶ月時にお子さんから約4～9ml採血させていただき、甲状腺機能と免疫・アレルギー等の検査を行うとともに、発育・発達状態等の健康調査及び出生時の先天性代謝異常等検査の結果の確認を行うことを予定しております。これらの検査は、まとめて分析するため、調査結果がまとまったところでご希望の方には結果をお知らせいたします。

なお、本調査のすべての情報については、統計的に処理し個人名が出ることはなく、ご協力いただいた皆様へご迷惑をおかけすることはありません。

よろしくご協力くださいますようお願い申し上げます。

厚生労働科学研究（食品の安心・安全確保推進）研究事業

「母乳のダイオキシン類汚染の実態調査と乳幼児の発達への影響に関する研究」

主任研究者 多田 裕（東邦大学名誉教授）

分担研究者 中村 好一（自治医科大学教授）

分担研究者 近藤 直実（岐阜大学大学院教授）

分担研究者 板橋家頭夫（昭和大学教授）

分担研究者 岡 明（杏林大学教授）

分担研究者 宇賀 直樹（東邦大学教授）

連絡先 県 部 課 担当
電話